病院図書室　16(3):109-111, 1996

特集――――――――――近畿病院図書室協議会第78回研修会 事例研究報告会

文献相互貸借の謝絶理由の分析

山　室　眞知子

製薬会社の文献サービスの自粛以来、各病院図書室における院外への文献複写依頼の件数が増加の傾向にあり、当協議会会員間での相互貸借は日数も早く安価な料金でお互いにその恩恵を受けている。しかし文献を依頼する件数と依頼を受ける件数の増加で、負担も大きくなりつつある。

このような状況のなかで、依頼を受けた文献が何らかの理由で送付できない場合には、直ちに「謝絶」として相手方に連絡しなければならず、「謝絶」を受けた側も再度依頼先を探して再依頼の手続きをしなければならない。

双方の手間を省くために「謝絶」の件数をできるだけ減らす方法はないものかと考え、まず「謝絶」の理由の調査を試みた。

1．調査の方法

各会員機関での「謝絶」の理由を調査するために、比較的多くの件数の依頼を受けている会員に「謝絶」の件数を問い合わせてみた。しかし「謝絶」の件数の記録を残している図書室は非常に少なく、全会員への調査は断念した。幸いデータを残されていた4機関と当院のデータを合わせて「謝絶」理由の分析を行うことにした。調査期間は、1995年4月1日より1996年2月29日までの「謝絶」とした。

まず「謝絶」の理由として考えられることを項目にあげてみた。

(1)　当協議会の雑誌所蔵目録の不備
(2)　目録による所在確認の誤り
(3)　参照事項の不完
(4)　依頼を受けた図書室の事情（欠号・貸出中・製本中・廃棄・未着・紛失・所在不明・別置・箱詰め等）

2．調査結果

以上の4項目をもとにして〔表1〕を作成、5病院の「謝絶」理由別の件数を調査した。

(1)　雑誌所蔵目録の不備

当協議会の雑誌所蔵目録は、総合目録〔和文編・国内欧文編・華韓編〕が1984年に〔欧文編・第2版〕が1987年に発行されたあと、1993年に「現行雑誌所在目録」が作成されている。従って、和雑誌等では1984-1992年までの期間、欧文編では1987-1992年までの期間、そして1994年以後の雑誌の所蔵状況が不明ということになる。また多くの病院では総合目録に記載されている1970年代以前の雑誌は廃棄、または別置・箱詰めにされていることが多く、依頼されても「謝絶」とせざるを得ない。このようなことにより、「1993年以前の所蔵状況の未確認」と「1993年以後（現行雑誌所在目録作成以後）購読または受入れ中止」による「謝絶」の件数を合わせると118件となり、全件数(246件）の約48％となる。つまり会員病院の所蔵雑誌目録と現行雑誌所在目録が継続して発行されれば、「謝

やまむろ　まちこ：京都南病院図書室

絶」の件数を約半数にすることが可能となる。これは予想されていた通りの結果となった。

(2)　目録による所在確認の誤り

意外に件数が多かった「謝絶」理由は「所蔵していない雑誌の依頼のため」（43件、17.4%）である。明らかに目録上の雑誌名と所蔵機関の見間違いによるものと思われる。異なった雑誌でも非常に似かよった誌名もあり、とくに「現行雑誌所在目録　1993年版」では所蔵機関を「機関コード（数字）」で表示してあるからかも知れない。依頼件数が多い時には起こしやすい間違いであるが、依頼者側の注意が必要ということになる。また、本誌と臨時増刊号、または別冊(Supplement)が別購入のものもあり、本誌があれば当然これらも所蔵されているものと判断しての結果と思われる件数も含まれている。この経験から「現行雑誌所在目録　1996版」作成時には、分かる範囲ではあるが本誌と増刊号等を別々に所蔵機関を表示した。

(3)　参照事項の不完

書誌事項などが不十分で文献が送付できなかったもの18件(7.3%）と比較的少ないのは、依頼を受けた機関がそのまま「謝絶」とせずに、著者索引や総目次から該当文献を探し、参照事項の訂正や補足をして依頼に応えているためとも思われる。書誌事項の巻数と年数の不一致の場合が多いが、それぞれの巻数と年数に一致する雑誌の所蔵がない場合には「謝絶」とせざるを得ない。また論文の参考文献には印刷ミスが多く、コンピュータ検索で選択した文献にも、入力ミスによる間違いがあった。文献を依頼する者にはこれらを発見する術はないが、さしずめ転記の際の間違いに注意するしかあるまい。私のこれまでの経験では、巻（号）・ページ・年の間違いは

表1．文献複写謝絶理由の調査結果（5病院、'95.4 ～'96.2の状況）

謝絶理由 ―― 機関名	京南	A機関	B機関	C機関	D機関	合　計
'93 年以前の所蔵未確認	25	11	0	9	38	83
'93 年以後の所蔵未確認（1993年現行雑誌所在目録以後の中止）		17	2	12	4	35
所蔵なし（所蔵目録に記載なし）	4	20	1	1	17	43
参照事項の不備（調査しても不明）	4	4	1	6	3	18
複写不能（箱詰め、製本状態）						0
欠　号（所在不明を含む）		3	5	9		17
貸　出　中	1		1	4	9	15
製　本　中	4			7	1	12
廃　棄（所蔵の未確認）	5			2		7
未　着	1				10	11
そ　の　他	4				1	5
合　計（%）	48 (20)	55 (22)	10 (4)	50 (20)	83 (34)	246

データ提出協力病院　高山赤十字・京都市立．国立大阪・大阪府立母子保健総合医療センター　（順不同）

検索などで訂正できたが、コンピュータ検索における雑誌名の入力ミスの場合には、結局著者に問い合わせるしか方法がなかった。

以上は依頼する側の理由での「謝絶」(179件、72.7%)である。

(4)　依頼を受けた機関の事情による「謝絶」

所蔵はしているが、箱詰め・別置・製本状態などによる複写不能は0件であったが、廃棄(7件)・貸出中(15件)・製本中(12件)・所在不明を含む欠号(17件)を合わせて51件(20%)である。

「貸出中」と「製本中」の謝絶は一時的な理由のためであるが、その機関の製本の時期が毎年決まっている場合には、目録に表示するなどの方法を考えてみても良いと思う。

未着の件数の11件(4.4%)は主に寄贈雑誌で発行月より遅れて、またはまとめて一年遅れで受け入れられるためである。また最新一年分を各部署に別置されている例もある。

このような理由での「謝絶」を防ぐために「現行雑誌所在目録 1996年版」では、1996年5月1日現在、1996年の雑誌がすでに図書室に到着している雑誌に限定し、何らかの理由で相互貸借に応じられない雑誌は除外した。

その他の理由では5件(2%)で、そのうち4件は当図書室からの「謝絶」である。これは非常に稀な例であるが、依頼者より「大至急、FAXで送ってほしい」と4件同時の申し込みであった。あいにくその日は一人勤務で当院の利用者から至急の文献検索中で手が放せず、大変申し訳なかったが他の機関へ再依頼して頂きたいとお願いした。多くの会員機関に所蔵されている雑誌で幸いであったが、FAXでの依頼は相手方の事情が分からずに一方的となるので、お互いのために「至急送信」の場合は、電話での確認も必要ではないかと思われる。依頼先の担当者が休暇などで不在の場合も当然考えられよう。

3．まとめ

(1)　雑誌目録作成の必要性

「謝絶」の主な理由は、予想通り当協議会の雑誌総合目録の改版の遅れにより、各会員図書室の雑誌所蔵状況が確認しにくいためである。今後、「雑誌総合目録」改訂版の発行と「現行雑誌所在目録」の定期発行が早急の解決策となろう。当面、「総合目録　改訂版」の発行までは、最近発行された「現行雑誌所在目録　1996年版」と「1993年版」を参照して、1994年と1995年の雑誌の所在を確認されたい。また、1993年以前の雑誌の所在確認には「総合目録」を利用せざるを得ないが、1970年代以前の雑誌については、問い合わせによる確認が必要であろう。

(2)　目録上での正しい所在と所蔵の確認

目録上での見間違いによる「謝絶」件数が多かった。雑誌名の見間違いと、コード番号となっている所蔵機関の間違いによって、所蔵していない機関へ依頼することになる。

文献依頼の時に「〔謝絶〕の時には至急連絡下さい」というメッセージがつけられていることがよくある。依頼された方もできるだけ早く連絡するよう心がけているが、「謝絶」の理由が製本中とか、欠号という場合は別として、依頼者のミスによる「謝絶」のために相手方にその手間と連絡のためのFAX料金や電話料金を負担させることのないように、お互いに十分に配慮したいと思う。

最後に、この調査のために、高山赤十字病院、京都市立病院、国立大阪病院、大阪府立母子保健総合医療センターにご無理をお願いしてデータを揃えていただいた。とくに母子保健総合医療センターからは詳しく分析したデータをいただいたが、十分活用できなかったことをお詫びする。また、参考資料として京都府立医大図書館からもデータを頂いたが、やはり「所蔵なし」の件数が184件と群を抜いて多かった。

最後にこの調査のためにデータを提供して頂いた方々に感謝いたします。